

ミナミイワトビペンギンが2羽誕生しました

～ 液状保存精子による人工授精成功の可能性がります ～

海遊館（大阪市港区）では、2023年6月10日（土）、11日（日）に、「フォークランド諸島（マルビナス）」水槽で、ミナミイワトビペンギンの雛が2羽誕生しました。

同水槽では、子育て中の親鳥たちが時折、雛に口移しで餌を与える等、子育ての様子をご覧いただけます。

海遊館は、葛西臨海水族園（東京都江戸川区）とミナミイワトビペンギンの繁殖生態の解明、人工繁殖技術の確立等を目的とした共同研究に取り組んでいます。過去には液状保存精子を用いた人工授精（2016年）と、凍結保存精子を用いた人工授精（2022年）に、世界で初めて成功しました。

今回2卵を産卵したメスは、受精率を高めるため、ペアのオスとの自然受精に加え、同水槽で飼育しているペアではないオスから採取した液状保存精子を用いて人工授精を実施しました。

今後、誕生した2羽の雛は、オス親特定のためにDNA検査を実施します。人工授精に用いた液状保存精子のDNAが検出されれば世界で2例目の人工授精が成功したことになります。

2羽の雛は、親鳥の負担軽減や成育率向上のため、6月10日に誕生した雛は親鳥が、6月11日に誕生した雛は仮親（親鳥ではない別のペア）が子育てをしています。

雛の成長は順調で、飼育員は毎朝の体重測定や観察で健康状態をチェックしながら、子育てを見守っています。



ミナミイワトビペンギンの雛(6/12撮影)



子育ての様子(6/12撮影)

海遊館は、雛と子育ての様子をご覧いただくことで、生命誕生のすばらしさを感じていただければと考えています。

【広報連絡先】

毎朝行っている、雛の体重測定をご撮影いただけます。

取材・素材提供をご希望の際は、下記までご連絡ください。

海遊館 広報チーム (06-6576-5529)

【今回誕生した雛について】

	孵化日	性別	体重	
			出生直後	6月16日現在
1羽目	2023年6月10日	不明	77.7g	276.5g
2羽目	2023年6月11日		55.5g	204.2g

【今回の人工授精の実施について】

メス親	精子の処理	人工授精実施日	産卵日	孵化日	備考
R301	液状保存	4月26日	5月5日	6月11日	人工授精成功の可能性あり
			5月9日	6月10日	

【 担当者コメント 】

海遊館でのミナミイワトビペンギンの繁殖は3年ぶりとなります。

これまで毎年のように雛が誕生していたのが昨年、一昨年と途絶え、どうすれば繁殖を再開できるか悩み、試行錯誤を重ねる毎日でした。このように雛の姿を見ることができて、とても嬉しく思います。

【 ミナミイワトビペンギンについて 】

英名 : Southern Rockhopper Penguin

学名 : *Eudyptes chrysocome*

体長は成熟個体で45～58cm、体重は2.2～4.2kg。ペンギンのなかでも小型の種で、岩場を飛び跳ねながら移動することからこの名前がついたといわれています。目の上にある黄色い冠羽が特徴で、沿岸の岩場の小石や雑草で巣づくりをします。メスは1回の繁殖で通常2個の卵を産みます。ペンギンの中では気性がやや激しく、小魚やオキアミなどを食べます。



【 ミナミイワトビペンギンの人工繁殖研究について 】

日本国内で飼育されているミナミイワトビペンギンは[11 園館 118羽 (オス67羽 メス46羽 不明5羽) ※1]と少なく、さらには個体群の高齢化が進んでいることから、年々個体数が減少している傾向にあります。

海遊館では、2011年から本種の繁殖生態の解明、人工繁殖技術の確立を目的とした研究を開始しました。2016年に葛西臨海水族園と連携し、液状保存精子を用いた人工授精に世界で初めて成功。2017年からはさらなる研究の発展を目標に同園と共同研究契約を締結し、2022年にはより長期間の保存が可能となる凍結保存精子を用いた人工授精に世界で初めて成功しました。

2023年においても継続し、本研究に取り組んでいます。

※1 2021年ミナミイワトビペンギン国内血統登録台帳【(公社)日本動物園水族館協会】より